

突撃取材



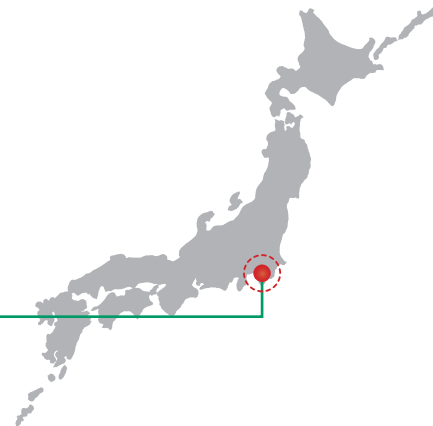
事業所 レポート!

第5回

全国の事業拠点を訪問し
取材するコーナー。社員
のみなさんからお話を伺
い、事業所の特徴や取組
みなどをご紹介します。

今回の訪問先は

君津事業所



【事業所PROFILE】

立地：千葉県君津市君津／新日鉄住金(株)君津製鉄所内
歴史：(株)テツゲンのスラグ事業部門より販売の業務移管を受け発足
人員：18名（2016年12月1日現在）

主な特徴：●スラグ製造は(株)テツゲン（以下、テツゲン）が担当し、
当社は販売・営業活動に特化。
●千葉県内を中心に東北・新潟・北海道へ販売エリアを拡大。
●護岸・港湾でニーズが高い水和固化体（人工石材）の販売を強化。

【スラグ生産に関わる会社】

株式会社テツゲン

1939年設立。製鉄プロセス
で発生する多様な副産物の
加工・販売を行う。再資源化に
向けた研究を重ね多くの製
品・技術を保有し、幅広い事業
を展開する。

株式会社メイカイ

(株)テツゲンの関連
会社。一般貨物運
送・港湾運送を中心
に、スラグ製品など
の運搬業務を担う。



事業所近郊のおすすめスポット

久留里の名水・日本酒

久留里は、水の町です。君津で発展した井戸掘りの伝統技術「上総掘り」による自噴井戸がいたる所にあります。この名水を利用した酒造りも盛んで、酒蔵が多いのも特色です。お好みの銘酒を探しに、久留里の酒蔵散策はいかがでしょう。



営業第二室
近藤 友美

東京ドイツ村

東京ドイツ村は、関東三大イルミネーションの一つです。LEDや電球など約250万個の光と音楽が醸し出す幻想的で美しい世界は感動的です。春には、関東最大級の面積を誇る「芝桜」も一見の価値があります。ぜひ、ご家族でお越し下さい。



総務室
神作 愛

中の島大橋

木更津市にある中の島大橋は、高さ27メートル・長さが236メートルという日本一高い歩道橋です。夕暮れ時には、富士山を背景に写真を撮ることができ、また天気の良いと橋から東京湾内を一望することが出来ます。ぜひお立ち下さい。



営業第二室
赤坂 晶子

製販バランス確保に向け地元から販路を拡大。 固化体など付加価値でスラグの認知度を向上。

君津製鉄所は房総半島の西側、東京湾に面し関東経済圏を支える新日鉄住金(株)の中核製鉄所です。

君津事業所では、販売に特化した少数精鋭のスマートな組織で活動しています。

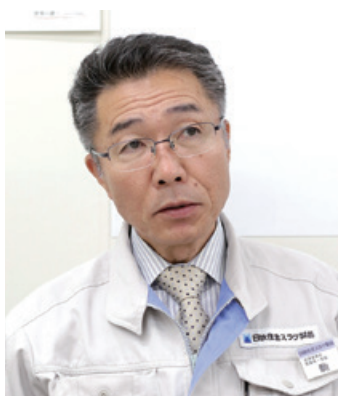
かつては地元である千葉県内を中心とした販売エリアでしたが、現在は東北・新潟・北海道など販路を拡大。

また、自然環境に優しい人工石材を開発するなど、ユニークな製品でスラグの活用の幅を広げています。

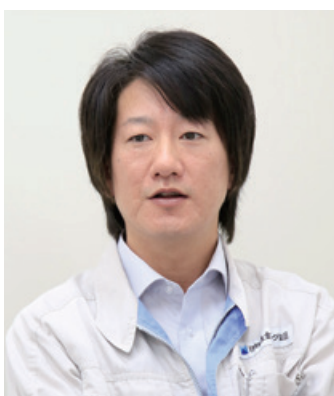
ここでは岡部事業所長と営業第一室・第二室の方々にご登場いただき、事業活動や今後のビジョンを伺いました。



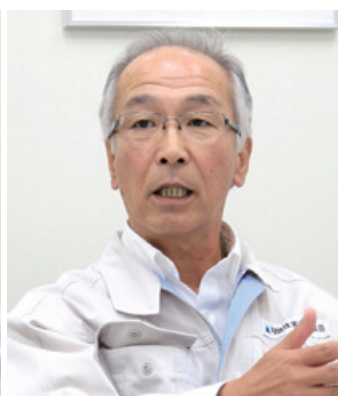
君津事業所長
岡部 孝吉



営業第一室長
駒 正夫



営業第一室 主査
森 祐樹



営業第二室長
白鳥 弘仁

販売代理店を通じて遠隔地のニーズに対応するため ヤードからの出荷や他の事業所・支店との連携を強化。

—— 君津事業所の概要や成り立ちをお聞かせください。

岡部 君津製鉄所で発生するスラグの製販バランスの確保が君津事業所の役割です。当社の発足と同時に、君津ではスラグの製造・販売を一貫して手がけていたテツゲンから販売部門の業務移管を受け、現在の組織となりました。そのためほぼ全員がテツゲン出身者。総務室・営業第一室・営業第二室の3室、18名の体制で活動しています。

—— テツゲン時代を含めこれまでの経緯を伺えますか。

岡部 昭和40年代当時のスラグは、ほとんどが君津製鉄所の土地造成などの構内利用でしたが、昭和50年代に入って、商品としての公的規格も順次整備され、外販が推進されてきました。骨材の少ない千葉県内の道路整備には、相当な利用をいただけてきました。一方、道路工事の減少とともに、君津近郊だけでは売り先の確保が難しくなってきたため、千葉県の北部や埼玉県、更には東北や北海道に販売エリアを拡大してきたところで、最近では、東北で東日本大震災の早期復旧、復興のお役にも立てています。

—— 営業第一室、営業第二室それぞれの仕事内容をお聞かせください。

駒 第一室は地元、第二室は千葉県北部など遠方地域が対象

で、人員は第一室が5名、第二室が7名です。北海道や東北の営業活動は、それぞれの支店で対応しており、君津事業所は、実際の製品出荷や販売管理を担当しています。

—— お仕事でのエピソードなどはありますか。

駒 すべて代理店経由で販売するのですが、売り先が見つからず困っていた時期に、県の土木事務所に営業を試みました。館山道開通にあたり、2kmほどのバイパス工事があり、もともとの設計では天然砕石が使われる予定でした。ところが会計監査が厳しくなり、材料コストの見直しが行われたのです。関連各所の担当者に対しコスト削減の提案をしたところ、逆転してスラグが採用。万トン級の受注となりました。

森 代理店からの急な注文には迅速対応を心がけていますが、難しい場合もあります。契約書や現場調査表の作成が必要、現場試験をして許可が必要なケースなど、承認が下りるまで1週間から10日間ほどかかることもあります。その場合には製鉄所やお客様と打合せして、納期を調整します。

—— 第二室はどのような活動をされていますか。

白鳥 第二室は千葉県北部を中心に遠方地域を担当しています。お客様満足と代理店への対応力を強化するため、2011年から船橋・印西・柏・八街の4ヶ所にヤードを構え、そこから出荷できる体制を整備しています。代理店の実績を増やすため、製鉄所からも営業に同行していただくこともあります。新日鉄住金、販売代理店、そして当社の総力戦ですね。



- ① 営業を中心とした18名のメンバーが活動する職場。
- ② 会議室では活発な意見交換がなされる。人数が少ないため比較的コミュニケーションを図りやすい。
- ③ 人工石材の「フロンティアストーン®・フロンティアロック®」は、港湾の修繕工事や護岸補修などに活用されている。



岡部 今は、千葉県北部と東北の販売拠点が、スラグの製販バランスに大きく貢献してくれています。この間に、地域ごとの代理店との関係を深め、総合的な営業活動の質を高めていきたいと考えています。また、会社が統合されることで、比較的市場が共通する鹿島事業所とも協力関係が図れるようになりました。今後、一層の物流の効率化や在庫調整機能の改善が期待されます。

製造部門のテツゲンとコミュニケーションを密に 販売先の確保と安全・品質向上を推進。

—— テツゲンとの関わりについてお聞かせください。

岡部 製鉄所を中心に当社とテツゲンが参加し、製造販売会議を週1度行っています。ここでは期・月次の販売計画、生産計画が話し合われます。これとは別に当社とテツゲンとで週に1度、販売・輸送計画について会議を実施しています。

白鳥 翌週の出荷量や船積み計画、ダンプでの陸送計画など、数量を確認する作業が中心。出荷の状況に応じて輸送計画の調整等を検討します。船やダンプの手配は当社が取りまとめ、輸送会社に調整を依頼。陸送はテツゲンの関連会社のメイカイが担当しています。

岡部 輸送会社とは我々が契約しているため、安全教育をしなければなりません。テツゲンにも協力を仰ぎ、陸送を担当するメイカイが協力会社3社のダンプオペレーターを一堂に集め、安全教育を年1～2回行っています。我々は東北・北海道の運送会社の事業主を対象に、年3回ほどミーティングを実施します。

白鳥 品質管理は製鉄所とテツゲン主体です。我々は、試験成績表をいただいた時に、客先仕様に合っているか、しっかり確認することがポイントです。お客様との接点は、当社の役割です。お客様の信頼を培っていけるようテツゲンともしっかり連携しています。

岡部 鉄鋼スラグ製品は、業界としてしっかりした販売ガイドラ

インがあります。新日鉄住金では、このガイドラインよりさらに厳しい販売管理規程を制定し、現場に徹底させています。この役割を当社が担っているわけです。徹底した販売管理と製品の厳格な品質管理は、鉄鋼スラグを安心して使っていただくための基本だと考えています。

—— 最後に今後の目標をお聞かせください。

森 新日鉄住金の官庁営業や漁業関係者への理解活動の効果もあり、鉄鋼スラグを原料とする人工石材としての「水和固化体」の販売が増えています。自由な大きさで作れるメリットがあり、津波で壊されたケーソンの補強材や、最近では河川の護岸補強、海域の魚礁作りにも活用されています。今後、当社では、天然資源をセーブする石材として、販売実績を踏まえ新たな販路拡大に貢献したいと思います。

駒 製販バランス確保には、販売エリアの拡大を視野に入れなければなりません。震災復興が一段落した後、山形や秋田など新規地域を開拓する、あるいは千葉県から埼玉・栃木・群馬などに足を伸ばすのか。製鉄所の意向をふまえ、あらゆる可能性を検討しながら新規開拓にチャレンジしたいですね。

白鳥 県北でいえば数量を維持することが課題。新規開拓も大事ですが、既存地域の取りこぼしを減らし、代理店とともに営業強化を図ります。

岡部 所長として心がけているのは「誰でも意見の言える風通しの良い職場」づくり。自由闊達に意見の飛び交う職場にすることが目標です。

—— 本日はありがとうございました。



事業所の取り組みをご紹介します

定例懇親会(四半期に1回)

事業所員誰もが立場を超えて、意見の言いやすい職場となるべく、全員参加の情報共有と懇親会を実施。